

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.



10  
102 (b)  
So 1

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **11185961 A**(43) Date of publication of application: **09 . 07 . 99**

(51) Int. Cl.

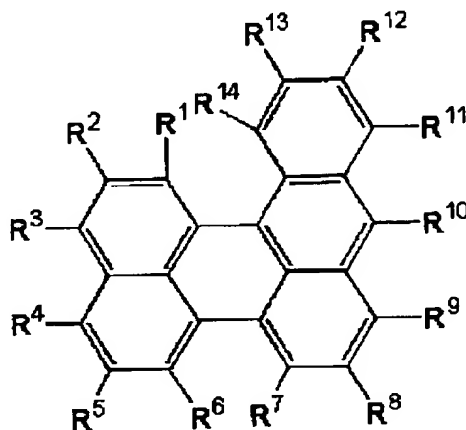
**H05B 33/14****C09K 11/06****C09K 11/06****H05B 33/22**(21) Application number: **09357022**(22) Date of filing: **25 . 12 . 97**(71) Applicant: **NEC CORP**(72) Inventor: **AZUMAGUCHI TATSU  
ODA ATSUSHI  
ISHIKAWA HITOSHI**(54) **ORGANIC ELECTROLUMINESCENT ELEMENT**

COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(57) Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To emit light with high luminance by containing a benzperylene compound having a specific structure singly or through a mixture thereof in at least one layer of one layer or a plurality of layers of organic thin film layers containing a light emitting layer between a cathode and an anode.

**SOLUTION:** A benzperylene compound used is expressed by the formula, where each of R<sup>1</sup> to R<sup>14</sup> denotes a hydrogen atom, a halogen atom, a hydroxyl group, an amino group, a nitro group, a cyano group, an alkyl group, an alkenyl group, a cycloalkyl group, an alkoxy group, an aromatic hydrocarbon group, an aromatic heterocyclic group, an aralkyl group, an aryloxy group, an alkoxy carbonyl group or a carboxyl group independently, and R<sup>1</sup> to R<sup>14</sup> may form a ring by two of them. It has at least a positive hole transfer layer as an organic thin film layer, and this layer contains the benzperylene compound singly or through a mixture thereof preferably.



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-185961

(43)公開日 平成11年(1999) 7月9日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

H 0 5 B 33/14

H 0 5 B 33/14

B

C 0 9 K 11/06

6 1 0

C 0 9 K 11/06

6 1 0

6 2 0

6 2 0

H 0 5 B 33/22

H 0 5 B 33/22

D

B

審査請求 有 請求項の数5 O L (全 17 頁)

(21)出願番号

特願平9-357022

(22)出願日

平成9年(1997)12月25日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 東口 達

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

(72)発明者 小田 敦

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

(72)発明者 石川 仁志

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

(74)代理人 弁理士 稲垣 清

(54)【発明の名称】 有機エレクトロルミネッセンス素子

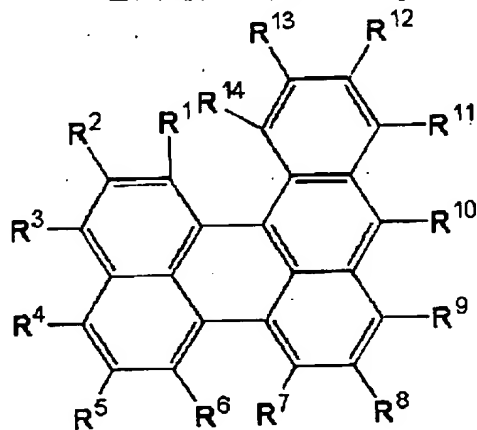
(57)【要約】

【課題】 高輝度な有機EL素子を提供する。

【解決手段】 有機EL素子の構成材料として、下記一般式(1)(式中、 $R^1 \sim R^{14}$ はそれぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシ基、置換若しくは無置換のアミノ基、ニトロ基、シアノ基、置換若しくは無置換のアルキル基、置換若しくは無置換のアルケニル基、置換若しくは無置換のシクロアルキル基、置換若しくは

無置換のアルコキシ基、置換若しくは無置換の芳香族炭化水素基、置換若しくは無置換の芳香族複素環基、置換若しくは無置換のアラルキル基、置換若しくは無置換のアリールオキシ基、置換若しくは無置換のアルコシカルボニル基、又は、カルボキシ基を表す。 $R^1 \sim R^{14}$ は、それらの内の2つで環を形成していてもよい。)で表される特定のベンゾペリレン化合物を用いる。

【化22】



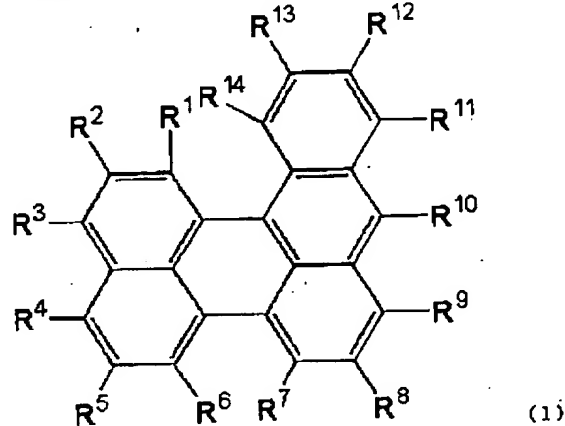
(1)

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 陰極と陽極との間に発光層を含む一層又は複数層の有機薄膜層を有する有機エレクトロルミネッセ

センス素子において、前記有機薄膜層の少なくとも一層に、下記一般式(1)

【化1】



(式中、 $R^1 \sim R^{14}$ はそれぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、置換若しくは無置換のアミノ基、ニトロ基、シアノ基、置換若しくは無置換のアルキル基、置換若しくは無置換のアルケニル基、置換若しくは無置換のシクロアルキル基、置換若しくは無置換のアルコキシ基、置換若しくは無置換の芳香族炭化水素基、置換若しくは無置換の芳香族複素環基、置換若しくは無置換のアラルキル基、置換若しくは無置換のアリールオキシ基、置換若しくは無置換のアルコキシカルボニル基、又は、カルボキシル基を表す。 $R^1 \sim R^{14}$ は、それらの内の2つで環を形成していてもよい。)で示されるベンゾペリレン化合物を単独もしくは混合物で含むことを特徴とする有機エレクトロルミネッセンス素子。

【請求項2】 前記有機薄膜層として、少なくとも正孔輸送層を有し、この層が前記一般式(1)で表されるベンゾペリレン化合物を単独もしくは混合物で含むことを特徴とする請求項1に記載の有機エレクトロルミネッセ

ンス素子。

【請求項3】 前記有機薄膜層として、少なくとも電子輸送層を有し、この層が前記一般式(1)で表されるベンゾペリレン化合物を単独もしくは混合物で含むことを特徴とする請求項1に記載の有機エレクトロルミネッセ

ンス素子。

【請求項4】 一般式(1)で示される化合物において、 $R^1 \sim R^{14}$ の内の少なくとも一つは $-NAr^1Ar^2$  ( $Ar^1$ 、 $Ar^2$ はそれぞれ独立に炭素数6~20のアリール基を表し、このアリール基は置換基を有していてもよい。)で表されるジアリールアミノ基であることを特徴とする請求項1、2又は3に記載の有機エレクトロ

ルミネッセンス素子。

【請求項5】 一般式(1)で示される化合物において、 $R^1 \sim R^{14}$ の内の少なくとも一つは $-NAr^1Ar^2$  ( $Ar^1$ 、 $Ar^2$ はそれぞれ独立に炭素数6~20のアリール基を表し、このアリール基は置換基を有していてもよい。)で表されるジアリールアミノ基であり、か

つ、それら $Ar^1$ 、 $Ar^2$ の少なくとも一つは置換又は無置換のステリル基を置換基として有することを特徴とする請求項4に記載の有機エレクトロルミネッセンス素子。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、発光特性に優れた有機エレクトロルミネッセンス素子に関する。

## 【0002】

【従来の技術】有機エレクトロルミネッセンス(EL)素子は、電界を印加することにより、陽極より注入された正孔と陰極より注入された電子との再結合エネルギーにより蛍光性物質が発光する原理を利用した自発光素子である。イーストマン・コダック社のC. W. Tangらによって積層型素子による低電圧駆動有機EL素子の報告(C. W. Tang, S. A. VanSlyke, Applied Physics Letters, 51巻, 913頁, 1987年など)がなされて以来、有機材料を構成材料とする有機EL素子に関する研究が盛んに行われている。Tangらは、トリス(8-ヒドロキシキノリノールアルミニウム)を発光層に、トリフェニルジアミン誘導体を正孔輸送層に用いている。積層構造の利点としては、発光層への正孔の注入効率を高めること、陰極より注入された電子をブロックして再結合により生成する励起子の生成効率を高めること、発光層内で生成した励起子を閉じこめることなどが挙げられる。この例のように有機EL素子の素子構造としては、正孔輸送(注入)層、電子輸送性発光層の2層型、又は正孔輸送(注入)層、発光層、電子輸送(注入)層の3層型等がよく知られている。こうした積層型構造素子では、注入された正孔と電子の再結合効率を高めるため、素子構造や形成方法の工夫がなされている。

【0003】正孔輸送性材料としてはスターバースト分子である4, 4', 4''-トリス(3-メチルフェニルフェニルアミノ)トリフェニルアミンやN, N'-ジフェニル-N, N'-ビス(3-メチルフェニル)-

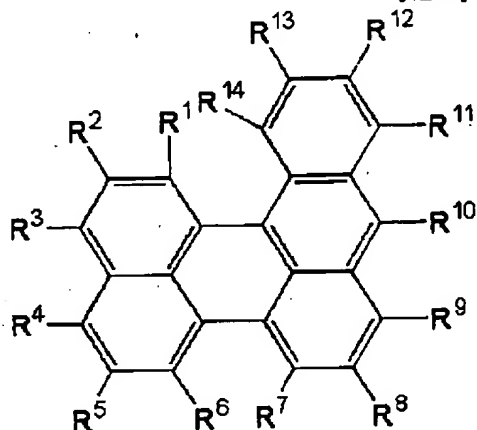
【1, 1'-ビフェニル】-4, 4'-ジアミン等のトリフェニルアミン誘導体や芳香族ジアミン誘導体がよく知られている（例えば、特開平8-20771号公報、特開平8-40995号公報、特開平8-40997号公報、公報特開平8-543397号公報、特開平8-87122号公報等）。電子輸送性材料としてはオキサジアゾール誘導体、トリアゾール誘導体等がよく知られている。

【0004】また、発光材料としてはトリス（8-キノリノラート）アルミニウム錯体等のキレート錯体、クマリン誘導体、テトラフェニルプタジエン誘導体、ビススチリルアレーン誘導体、オキサジアゾール誘導体等の発光材料が知られ、それらの発光色も青色から赤色までの可視領域の発光が得られることが報告されており、カラー表示素子の実現が期待されている（例えば、特開平8-239655号公報、特開平7-138561号公報、特開平3-200289号公報等）。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】最近では、高輝度、長寿命の有機EL素子が開示あるいは報告されているが、未だ必ずしも十分なものとはいえない。したがって、高性能を示す材料開発が強く求められている。本発明の目的は、高輝度の有機EL素子を提供することにある。

【0006】



(1)

（式中、 $R^1 \sim R^{14}$ はそれぞれ独立に水素原子、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、置換若しくは無置換のアミノ基、ニトロ基、シアノ基、置換若しくは無置換のアルキル基、置換若しくは無置換のアルケニル基、置換若しくは無置換のシクロアルキル基、置換若しくは無置換のアルコキシ基、置換若しくは無置換の芳香族炭化水素基、置換若しくは無置換の芳香族複素環基、置換若しくは無置換のアラルキル基、置換若しくは無置換のアリールオキシ基、置換若しくは無置換のアルコキシカルボニル基、又は、カルボキシル基を表す。 $R^1 \sim R^{14}$ は、それらの内の2つで環を形成していてもよい。）で表されるベンゾペリレン化合物を単独もしくは混合物で含むことを特徴とする有機エレクトロルミネッセンス素子。

【0008】②前記有機薄膜層として、少なくとも正孔

【課題を解決するための手段】本発明者らは、前記課題を解決するために鋭意検討した結果、特定のベンゾペリレン化合物を発光材料として用いて作製した有機EL素子は、従来よりも高輝度で発光することを見いだした。また、前記材料は高いキャリア輸送性を有することがわかり、前記材料を正孔輸送材料あるいは電子輸送材料として作製した有機EL素子、及び前記材料と他の正孔輸送材料あるいは電子輸送材料との混合薄膜を用いて作製した有機EL素子は、従来よりも高輝度発光を示すことを見いだした。また、前記ベンゾペリレン化合物の中でも、ジアリールアミノ基を置換基に有するものを用いて作製した有機EL素子は、特に高い輝度の発光が得られることを見出した。さらに、ジアリールアミノ基を置換基に有するベンゾペリレン化合物の中でも、アリール基がスチリル基を置換基として有するものを用いて作製した有機EL素子は、特に高い輝度の発光が得られることを見いだした。

【0007】したがって、本発明は、下記①～⑤の有機エレクトロルミネッセンス素子を提供するものである。

①陰極と陽極との間に発光層を含む一層又は複数層の有機薄膜層を有する有機エレクトロルミネッセンス素子において、前記有機薄膜層の少なくとも一層に、下記一般式(1)

【化2】

輸送層を有し、この層が前記一般式(1)で表されるベンゾペリレン化合物を単独もしくは混合物で含むことを特徴とする①の有機エレクトロルミネッセンス素子。

【0009】③前記有機薄膜層として、少なくとも電子輸送層を有し、この層が前記一般式(1)で表されるベンゾペリレン化合物を単独もしくは混合物で含むことを特徴とする①の有機エレクトロルミネッセンス素子。

【0010】④一般式(1)で示される化合物において、 $R^1 \sim R^{14}$ の内の少なくとも一つは $-NAr^1Ar^2$  ( $Ar^1$ ,  $Ar^2$ はそれぞれ独立に炭素数6～20のアリール基を表し、このアリール基は置換基を有していてもよい。)で表されるジアリールアミノ基であることを特徴とする①～③の有機エレクトロルミネッセンス素子。

【0011】⑤一般式(1)で示される化合物において、 $R^1 \sim R^{14}$ の内の少なくとも一つは $-NAr^1Ar^2$  ( $Ar^1$ 、 $Ar^2$ はそれぞれ独立に炭素数6~20のアリール基を表し、このアリール基は置換基を有していてもよい。)で表されるジアリールアミノ基であり、かつ、前記 $Ar^1$ 、 $Ar^2$ の少なくとも一つは置換又は無置換のスチリル基を置換基として有することを特徴とする④の有機エレクトロルミネッセンス素子。

#### 【0012】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。本発明に用いるベンゾペリレン化合物は、一般式(1)で表される構造を有する化合物である。式(1)の $R^1 \sim R^{14}$ において、ハロゲン原子としては、フッ素、塩素、臭素、ヨウ素が挙げられる。

【0013】置換又は無置換のアミノ基は $-NX^1X^2$ と表され、 $X^1$ 、 $X^2$ の例としてはそれぞれ独立に、水素原子、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*s*-ブチル基、イソブチル基、*t*-ブチル基、*n*-ペンチル基、*n*-ヘキシル基、*n*-ヘプチル基、*n*-オクチル基、ヒドロキシメチル基、1-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシイソブチル基、1, 2-ジヒドロキシエチル基、1, 3-ジヒドロキシイソプロピル基、2, 3-ジヒドロキシ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリヒドロキシプロピル基、

【0014】クロロメチル基、1-クロロエチル基、2-クロロエチル基、2-クロロイソブチル基、1, 2-ジクロロエチル基、1, 3-ジクロロイソプロピル基、2, 3-ジクロロ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリクロロプロピル基、ブロモメチル基、1-ブロモエチル基、2-ブロモエチル基、2-ブロモイソブチル基、1, 2-ジブロモエチル基、1, 3-ジブロモイソプロピル基、2, 3-ジブロモ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリブロモプロピル基、ヨードメチル基、1-ヨードエチル基、2-ヨードエチル基、2-ヨードイソブチル基、1, 2-ジヨードエチル基、1, 3-ジヨードイソプロピル基、2, 3-ジヨード-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリヨードプロピル基、

【0015】アミノメチル基、1-アミノエチル基、2-アミノエチル基、2-アミノイソブチル基、1, 2-ジアミノエチル基、1, 3-ジアミノイソプロピル基、2, 3-ジアミノ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリアミノプロピル基、シアノメチル基、1-シアノエチル基、2-シアノエチル基、2-シアノイソブチル基、1, 2-ジシアノエチル基、1, 3-ジシアノイソプロピル基、2, 3-ジシアノ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリシアノプロピル基、ニトロメチル基、1-ニトロエチル基、2-ニトロエチル基、2-ニトロイソブチル基、1, 2-ジニトロエチル基、1, 3-ジニトロイソプロピル基、2, 3-ジニトロ-*t*-ブチル基、1,

2, 3-トリニトロプロピル基、

【0016】フェニル基、1-ナフチル基、2-ナフチル基、1-アントリル基、2-アントリル基、9-アントリル基、1-フェナントリル基、2-フェナントリル基、3-フェナントリル基、4-フェナントリル基、9-フェナントリル基、1-ナフタセニル基、2-ナフタセニル基、9-ナフタセニル基、4-スチリルフェニル基、1-ビレニル基、2-ビレニル基、4-ビレニル基、2-ビフェニルイル基、3-ビフェニルイル基、4-ビフェニルイル基、*p*-ターフェニル-4-イル基、*p*-ターフェニル-3-イル基、*p*-ターフェニル-2-イル基、*m*-ターフェニル-4-イル基、*m*-ターフェニル-3-イル基、*m*-ターフェニル-2-イル基、*o*-トリル基、*m*-トリル基、*p*-トリル基、*p*-*t*-ブチルフェニル基、*p*-(2-フェニルプロピル)フェニル基、3-メチル-2-ナフチル基、4-メチル-1-ナフチル基、4-メチル-1-アントリル基、4'-メチルビフェニルイル基、4"-*t*-ブチル-*p*-ターフェニル-4-イル基、

【0017】2-ピロリル基、3-ピロリル基、ピラジニル基、2-ピリジニル基、3-ピリジニル基、4-ピリジニル基、2-インドリル基、3-インドリル基、4-インドリル基、5-インドリル基、6-インドリル基、7-インドリル基、1-イソインドリル基、3-イソインドリル基、4-イソインドリル基、5-イソインドリル基、6-イソインドリル基、7-イソインドリル基、2-フリル基、3-フリル基、2-ベンゾフラニル基、3-ベンゾフラニル基、4-ベンゾフラニル基、5-ベンゾフラニル基、6-ベンゾフラニル基、7-ベンゾフラニル基、1-イソベンゾフラニル基、3-イソベンゾフラニル基、4-イソベンゾフラニル基、5-イソベンゾフラニル基、6-イソベンゾフラニル基、7-イソベンゾフラニル基、

【0018】2-キノリル基、3-キノリル基、4-キノリル基、5-キノリル基、6-キノリル基、7-キノリル基、8-キノリル基、1-イソキノリル基、3-イソキノリル基、4-イソキノリル基、5-イソキノリル基、6-イソキノリル基、7-イソキノリル基、8-イソキノリル基、2-キノキサリニル基、5-キノキサリニル基、6-キノキサリニル基、1-カルバゾリル基、2-カルバゾリル基、3-カルバゾリル基、4-カルバゾリル基、1-フェナンスリジニル基、2-フェナンスリジニル基、3-フェナンスリジニル基、4-フェナンスリジニル基、6-フェナンスリジニル基、7-フェナンスリジニル基、8-フェナンスリジニル基、9-フェナンスリジニル基、10-フェナンスリジニル基、1-アクリジニル基、2-アクリジニル基、3-アクリジニル基、4-アクリジニル基、9-アクリジニル基、

【0019】1, 7-フェナンスロリン-2-イル基、1, 7-フェナンスロリン-3-イル基、1, 7-フェ

10

20

30

40

50

ナンスロリン-4-イル基、1, 7-フェナンスロリン-5-イル基、1, 7-フェナンスロリン-6-イル基、1, 7-フェナンスロリン-8-イル基、1, 7-フェナンスロリン-9-イル基、1, 7-フェナンスロリン-10-イル基、1, 8-フェナンスロリン-2-イル基、1, 8-フェナンスロリン-3-イル基、1, 8-フェナンスロリン-4-イル基、1, 8-フェナンスロリン-5-イル基、1, 8-フェナンスロリン-6-イル基、1, 8-フェナンスロリン-7-イル基、1, 8-フェナンスロリン-9-イル基、1, 8-フェナンスロリン-10-イル基、1, 9-フェナンスロリン-2-イル基、1, 9-フェナンスロリン-3-イル基、1, 9-フェナンスロリン-4-イル基、1, 9-フェナンスロリン-5-イル基、1, 9-フェナンスロリン-6-イル基、1, 9-フェナンスロリン-7-イル基、1, 9-フェナンスロリン-8-イル基、1, 9-フェナンスロリン-10-イル基、1, 10-フェナンスロリン-2-イル基、1, 10-フェナンスロリン-3-イル基、

【0020】1, 10-フェナンスロリン-4-イル基、1, 10-フェナンスロリン-5-イル基、2, 9-フェナンスロリン-1-イル基、2, 9-フェナンスロリン-3-イル基、2, 9-フェナンスロリン-4-イル基、2, 9-フェナンスロリン-5-イル基、2, 9-フェナンスロリン-6-イル基、2, 9-フェナンスロリン-7-イル基、2, 9-フェナンスロリン-8-イル基、2, 9-フェナンスロリン-10-イル基、2, 8-フェナンスロリン-1-イル基、2, 8-フェナンスロリン-3-イル基、2, 8-フェナンスロリン-4-イル基、2, 8-フェナンスロリン-5-イル基、2, 8-フェナンスロリン-6-イル基、2, 8-フェナンスロリン-7-イル基、2, 8-フェナンスロリン-9-イル基、2, 8-フェナンスロリン-10-イル基、2, 7-フェナンスロリン-1-イル基、2, 7-フェナンスロリン-3-イル基、2, 7-フェナンスロリン-4-イル基、2, 7-フェナンスロリン-5-イル基、2, 7-フェナンスロリン-6-イル基、2, 7-フェナンスロリン-8-イル基、2, 7-フェナンスロリン-9-イル基、2, 7-フェナンスロリン-10-イル基、

【0021】1-フェナジニル基、2-フェナジニル基、1-フェノチアジニル基、2-フェノチアジニル基、3-フェノチアジニル基、4-フェノチアジニル基、1-フェノキサジニル基、2-フェノキサジニル基、3-フェノキサジニル基、4-フェノキサジニル基、2-オキサゾリル基、4-オキサゾリル基、5-オキサゾリル基、2-オキサジアゾリル基、5-オキサジアゾリル基、3-フラザニル基、2-チエニル基、3-チエニル基、2-メチルピロール-1-イル基、2-メチルピロール-3-イル基、2-メチルピロール-4-

イル基、2-メチルピロール-5-イル基、3-メチルピロール-1-イル基、3-メチルピロール-2-イル基、3-メチルピロール-4-イル基、3-メチルピロール-5-イル基、2-*t*-ブチルピロール-4-イル基、3-(2-フェニルプロピル)ピロール-1-イル基、2-メチル-1-インドリル基、4-メチル-1-インドリル基、2-メチル-3-インドリル基、4-メチル-3-インドリル基、2-*t*-ブチル-1-インドリル基、4-*t*-ブチル-1-インドリル基、2-*t*-ブチル-3-インドリル基、4-*t*-ブチル-3-インドリル基等が挙げられる。

【0022】置換又は無置換のアルキル基の例としては、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*s*-ブチル基、イソブチル基、*t*-ブチル基、*n*-ペンチル基、*n*-ヘキシル基、*n*-ヘプチル基、*n*-オクチル基、ヒドロキシメチル基、1-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシイソブチル基、1, 2-ジヒドロキシエチル基、1, 3-ジヒドロキシイソプロピル基、2, 3-ジヒドロキシ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリヒドロキシプロピル基、クロロメチル基、1-クロロエチル基、2-クロロエチル基、2-クロロイソブチル基、1, 2-ジクロロエチル基、1, 3-ジクロロイソプロピル基、2, 3-ジクロロ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリクロロプロピル基、プロモメチル基、1-プロモエチル基、2-プロモエチル基、2-プロモイソブチル基、1, 2-ジプロモエチル基、1, 3-ジプロモイソプロピル基、2, 3-ジプロモ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリプロモプロピル基、

【0023】ヨードメチル基、1-ヨードエチル基、2-ヨードエチル基、2-ヨードイソブチル基、1, 2-ジヨードエチル基、1, 3-ジヨードイソプロピル基、2, 3-ジヨード-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリヨードプロピル基、アミノメチル基、1-アミノエチル基、2-アミノエチル基、2-アミノイソブチル基、1, 2-ジアミノエチル基、1, 3-ジアミノイソプロピル基、2, 3-ジアミノ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリアミノプロピル基、シアノメチル基、1-シアノエチル基、2-シアノエチル基、2-シアノイソブチル基、1, 2-ジシアノエチル基、1, 3-ジシアノイソプロピル基、2, 3-ジシアノ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリシアノプロピル基、ニトロメチル基、1-ニトロエチル基、2-ニトロエチル基、2-ニトロイソブチル基、1, 2-ジニトロエチル基、1, 3-ジニトロイソプロピル基、2, 3-ジニトロ-*t*-ブチル基、1, 2, 3-トリニトロプロピル基等が挙げられる。

【0024】置換又は無置換のアルケニル基の例としては、ビニル基、アリル基、1-ブテニル基、2-ブテニル基、3-ブテニル基、1, 3-ブタンジエニル基、1-メチルビニル基、スチリル基、2, 2-ジフェニルビ

ニル基、1, 2-ジフェニルビニル基、1-メチルアリル基、1, 1-ジメチルアリル基、2-メチルアリル基、1-フェニルアリル基、2-フェニルアリル基、3-フェニルアリル基、3, 3-ジフェニルアリル基、1, 2-ジメチルアリル基、1-フェニル-1-ブテニル基、3-フェニル-1-ブテニル基等が挙げられる。

【0025】置換又は無置換のシクロアルキル基の例としては、シクロプロピル基、シクロブチル基、シクロペンチル基、シクロヘキシル基、4-メチルシクロヘキシル基等が挙げられる。

【0026】置換又は無置換のアルコキシ基は、-OYで表される基であり、Yの例としては、メチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、s-ブチル基、イソブチル基、t-ブチル基、n-ペンチル基、n-ヘキシル基、n-ヘプチル基、n-オクチル基、ヒドロキシメチル基、1-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシエチル基、2-ヒドロキシイソブチル基、1, 2-ジヒドロキシエチル基、1, 3-ジヒドロキシイソプロピル基、2, 3-ジヒドロキシ-t-ブチル基、1, 2, 3-トリヒドロキシプロピル基、クロロメチル基、1-クロロエチル基、2-クロロエチル基、2-クロロイソブチル基、1, 2-ジクロロエチル基、1, 3-ジクロロイソプロピル基、2, 3-ジクロロ-t-ブチル基、1, 2, 3-トリクロロプロピル基、ブロモメチル基、1-ブロモエチル基、2-ブロモエチル基、2-ブロモイソブチル基、1, 2-ジブロモエチル基、1, 3-ジブロモイソプロピル基、2, 3-ジブromo-t-ブチル基、1, 2, 3-トリブromoプロピル基、

【0027】ヨードメチル基、1-ヨードエチル基、2-ヨードエチル基、2-ヨードイソブチル基、1, 2-ジヨードエチル基、1, 3-ジヨードイソプロピル基、2, 3-ジヨード-t-ブチル基、1, 2, 3-トリヨードプロピル基、アミノメチル基、1-アミノエチル基、2-アミノエチル基、2-アミノイソブチル基、1, 2-ジアミノエチル基、1, 3-ジアミノイソプロピル基、2, 3-ジアミノ-t-ブチル基、1, 2, 3-トリアミノプロピル基、シアノメチル基、1-シアノエチル基、2-シアノエチル基、2-シアノイソブチル基、1, 2-ジシアノエチル基、1, 3-ジシアノイソプロピル基、2, 3-ジシアノ-t-ブチル基、1, 2, 3-トリシアノプロピル基、ニトロメチル基、1-ニトロエチル基、2-ニトロエチル基、2-ニトロイソブチル基、1, 2-ジニトロエチル基、1, 3-ジニトロイソプロピル基、2, 3-ジニトロ-t-ブチル基、1, 2, 3-トリニトロプロピル基等が挙げられる。

【0028】置換又は無置換の芳香族炭化水素基の例としては、フェニル基、1-ナフチル基、2-ナフチル基、1-アントリル基、2-アントリル基、9-アントリル基、1-フェナントリル基、2-フェナントリル

基、3-フェナントリル基、4-フェナントリル基、9-フェナントリル基、1-ナフタセニル基、2-ナフタセニル基、9-ナフタセニル基、1-ビレニル基、2-ビレニル基、4-ビレニル基、2-ビフェニルイル基、3-ビフェニルイル基、4-ビフェニルイル基、p-ターフェニル-4-イル基、p-ターフェニル-3-イル基、p-ターフェニル-2-イル基、m-ターフェニル-4-イル基、m-ターフェニル-3-イル基、m-ターフェニル-2-イル基、o-トリル基、m-トリル基、p-トリル基、p-t-ブチルフェニル基、p-(2-フェニルプロピル)フェニル基、3-メチル-2-ナフチル基、4-メチル-1-ナフチル基、4-メチル-1-アントリル基、4'-メチルビフェニルイル基、4"-t-ブチル-p-ターフェニル-4-イル基等が挙げられる。

【0029】置換又は無置換の芳香族複素環基の例としては、1-ピロリル基、2-ピロリル基、3-ピロリル基、ピラジニル基、2-ピリジニル基、3-ピリジニル基、4-ピリジニル基、1-インドリル基、2-インドリル基、3-インドリル基、4-インドリル基、5-インドリル基、6-インドリル基、7-インドリル基、1-イソインドリル基、2-イソインドリル基、3-イソインドリル基、4-イソインドリル基、5-イソインドリル基、6-イソインドリル基、7-イソインドリル基、2-フリル基、3-フリル基、2-ベンゾフラニル基、3-ベンゾフラニル基、4-ベンゾフラニル基、5-ベンゾフラニル基、6-ベンゾフラニル基、7-ベンゾフラニル基、1-イソベンゾフラニル基、3-イソベンゾフラニル基、4-イソベンゾフラニル基、5-イソベンゾフラニル基、6-イソベンゾフラニル基、7-イソベンゾフラニル基、

【0030】2-キノリル基、3-キノリル基、4-キノリル基、5-キノリル基、6-キノリル基、7-キノリル基、8-キノリル基、1-イソキノリル基、3-イソキノリル基、4-イソキノリル基、5-イソキノリル基、6-イソキノリル基、7-イソキノリル基、8-イソキノリル基、2-キノキサリニル基、5-キノキサリニル基、6-キノキサリニル基、1-カルバゾリル基、2-カルバゾリル基、3-カルバゾリル基、4-カルバゾリル基、9-カルバゾリル基、1-フェナンスリジニル基、2-フェナンスリジニル基、3-フェナンスリジニル基、4-フェナンスリジニル基、6-フェナンスリジニル基、7-フェナンスリジニル基、8-フェナンスリジニル基、9-フェナンスリジニル基、10-フェナンスリジニル基、1-アクリジニル基、2-アクリジニル基、3-アクリジニル基、4-アクリジニル基、9-アクリジニル基、

【0031】1, 7-フェナンスロリン-2-イル基、1, 7-フェナンスロリン-3-イル基、1, 7-フェナンスロリン-4-イル基、1, 7-フェナンスロリン



-5-イル基、1, 7-フェナンスロリン-6-イル基、1, 7-フェナンスロリン-8-イル基、1, 7-フェナンスロリン-9-イル基、1, 7-フェナンスロリン-10-イル基、1, 8-フェナンスロリン-2-イル基、1, 8-フェナンスロリン-3-イル基、1, 8-フェナンスロリン-4-イル基、1, 8-フェナンスロリン-5-イル基、1, 8-フェナンスロリン-6-イル基、1, 8-フェナンスロリン-7-イル基、1, 8-フェナンスロリン-9-イル基、1, 8-フェナンスロリン-10-イル基、1, 9-フェナンスロリン-2-イル基、1, 9-フェナンスロリン-3-イル基、1, 9-フェナンスロリン-4-イル基、1, 9-フェナンスロリン-5-イル基、1, 9-フェナンスロリン-6-イル基、1, 9-フェナンスロリン-7-イル基、1, 9-フェナンスロリン-8-イル基、1, 9-フェナンスロリン-10-イル基、

【0032】1, 10-フェナンスロリン-2-イル基、1, 10-フェナンスロリン-3-イル基、1, 10-フェナンスロリン-4-イル基、1, 10-フェナンスロリン-5-イル基、2, 9-フェナンスロリン-1-イル基、2, 9-フェナンスロリン-3-イル基、2, 9-フェナンスロリン-4-イル基、2, 9-フェナンスロリン-5-イル基、2, 9-フェナンスロリン-6-イル基、2, 9-フェナンスロリン-7-イル基、2, 9-フェナンスロリン-8-イル基、2, 9-フェナンスロリン-10-イル基、2, 8-フェナンスロリン-1-イル基、2, 8-フェナンスロリン-3-イル基、2, 8-フェナンスロリン-4-イル基、2, 8-フェナンスロリン-5-イル基、2, 8-フェナンスロリン-6-イル基、2, 8-フェナンスロリン-7-イル基、2, 8-フェナンスロリン-9-イル基、2, 8-フェナンスロリン-10-イル基、2, 7-フェナンスロリン-1-イル基、2, 7-フェナンスロリン-3-イル基、2, 7-フェナンスロリン-4-イル基、2, 7-フェナンスロリン-5-イル基、2, 7-フェナンスロリン-6-イル基、2, 7-フェナンスロリン-8-イル基、2, 7-フェナンスロリン-9-イル基、2, 7-フェナンスロリン-10-イル基、

【0033】1-フェナジニル基、2-フェナジニル基、1-フェノチアジニル基、2-フェノチアジニル基、3-フェノチアジニル基、4-フェノチアジニル基、10-フェノチアジニル基、1-フェノキサジニル基、2-フェノキサジニル基、3-フェノキサジニル基、4-フェノキサジニル基、10-フェノキサジニル基、2-オキサゾリル基、4-オキサゾリル基、5-オキサゾリル基、2-オキサジアゾリル基、5-オキサジアゾリル基、3-フラザニル基、2-チエニル基、3-チエニル基、2-メチルピロール-1-イル基、2-メチルピロール-3-イル基、2-メチルピロール-4-イル基、2-メチルピロール-5-イル基、3-メチル

ピロール-1-イル基、3-メチルピロール-2-イル基、3-メチルピロール-4-イル基、3-メチルピロール-5-イル基、2-*t*-ブチルピロール-4-イル基、3-(2-フェニルプロピル)ピロール-1-イル基、2-メチル-1-インドリル基、4-メチル-1-インドリル基、2-メチル-3-インドリル基、4-メチル-3-インドリル基、2-*t*-ブチル-1-インドリル基、4-*t*-ブチル-1-インドリル基、2-*t*-ブチル-3-インドリル基、4-*t*-ブチル-3-インドリル基等が挙げられる。

【0034】置換又は無置換のアラルキル基の例としては、ベンジル基、1-フェニルエチル基、2-フェニルエチル基、1-フェニルイソプロピル基、2-フェニルイソプロピル基、フェニル-*t*-ブチル基、 $\alpha$ -ナフチルメチル基、1- $\alpha$ -ナフチルエチル基、2- $\alpha$ -ナフチルエチル基、1- $\alpha$ -ナフチルイソプロピル基、2- $\alpha$ -ナフチルイソプロピル基、 $\beta$ -ナフチルメチル基、1- $\beta$ -ナフチルエチル基、2- $\beta$ -ナフチルエチル基、1- $\beta$ -ナフチルイソプロピル基、2- $\beta$ -ナフチルイソプロピル基、1-ピロリルメチル基、2-(1-ピロリル)エチル基、*p*-メチルベンジル基、*m*-メチルベンジル基、*o*-メチルベンジル基、*p*-クロロベンジル基、*m*-クロロベンジル基、*o*-クロロベンジル基、*p*-ブromoベンジル基、*m*-ブromoベンジル基、*o*-ブromoベンジル基、*p*-ヨードベンジル基、*m*-ヨードベンジル基、*o*-ヨードベンジル基、

【0035】*p*-ヒドロキシベンジル基、*m*-ヒドロキシベンジル基、*o*-ヒドロキシベンジル基、*p*-アミノベンジル基、*m*-アミノベンジル基、*o*-アミノベンジル基、*p*-ニトロベンジル基、*m*-ニトロベンジル基、*o*-ニトロベンジル基、*p*-シアノベンジル基、*m*-シアノベンジル基、*o*-シアノベンジル基、1-ヒドロキシ-2-フェニルイソプロピル基、1-クロロ-2-フェニルイソプロピル基等が挙げられる。

【0036】置換又は無置換のアリールオキシ基は、-OZと表され、Zの例としてはフェニル基、1-ナフチル基、2-ナフチル基、1-アントリル基、2-アントリル基、9-アントリル基、1-フェナントリル基、2-フェナントリル基、3-フェナントリル基、4-フェナントリル基、9-フェナントリル基、1-ナフタセニル基、2-ナフタセニル基、9-ナフタセニル基、1-ビレニル基、2-ビレニル基、4-ビレニル基、2-ビフェニルイル基、3-ビフェニルイル基、4-ビフェニルイル基、*p*-ターフェニル-4-イル基、*p*-ターフェニル-3-イル基、*p*-ターフェニル-2-イル基、*m*-ターフェニル-4-イル基、*m*-ターフェニル-3-イル基、*m*-ターフェニル-2-イル基、

【0037】*o*-トリル基、*m*-トリル基、*p*-トリル基、*p*-*t*-ブチルフェニル基、*p*-(2-フェニルプロピル)フェニル基、3-メチル-2-ナフチル基、4

10

20

30

40

50

ーメチルー1ーナフチル基、4ーメチルー1ーアントリル基、4'ーメチルビフェニル基、4''ーtーブチルーpーターフェニルー4ーイル基、2ーピロリル基、3ーピロリル基、ピラジニル基、2ーピリジニル基、3ーピリジニル基、4ーピリジニル基、2ーインドリル基、3ーインドリル基、4ーインドリル基、5ーインドリル基、6ーインドリル基、7ーインドリル基、1ーイソインドリル基、3ーイソインドリル基、4ーイソインドリル基、5ーイソインドリル基、6ーイソインドリル基、7ーイソインドリル基、2ーフリル基、3ーフリル基、2ーベンゾフラニル基、3ーベンゾフラニル基、4ーベンゾフラニル基、5ーベンゾフラニル基、6ーベンゾフラニル基、7ーベンゾフラニル基、1ーイソベンゾフラニル基、3ーイソベンゾフラニル基、4ーイソベンゾフラニル基、5ーイソベンゾフラニル基、6ーイソベンゾフラニル基、7ーイソベンゾフラニル基、

【0038】2ーキノリル基、3ーキノリル基、4ーキノリル基、5ーキノリル基、6ーキノリル基、7ーキノリル基、8ーキノリル基、1ーイソキノリル基、3ーイソキノリル基、4ーイソキノリル基、5ーイソキノリル基、6ーイソキノリル基、7ーイソキノリル基、8ーイソキノリル基、2ーキノキサリニル基、5ーキノキサリニル基、6ーキノキサリニル基、1ーカルバゾリル基、2ーカルバゾリル基、3ーカルバゾリル基、4ーカルバゾリル基、1ーフェナンスリジニル基、2ーフェナンスリジニル基、3ーフェナンスリジニル基、4ーフェナンスリジニル基、6ーフェナンスリジニル基、7ーフェナンスリジニル基、8ーフェナンスリジニル基、9ーフェナンスリジニル基、10ーフェナンスリジニル基、1ーアクリジニル基、2ーアクリジニル基、3ーアクリジニル基、4ーアクリジニル基、9ーアクリジニル基、

【0039】1, 7ーフェナンスロリンー2ーイル基、1, 7ーフェナンスロリンー3ーイル基、1, 7ーフェナンスロリンー4ーイル基、1, 7ーフェナンスロリンー5ーイル基、1, 7ーフェナンスロリンー6ーイル基、1, 7ーフェナンスロリンー8ーイル基、1, 7ーフェナンスロリンー9ーイル基、1, 7ーフェナンスロリンー10ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー2ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー3ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー4ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー5ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー6ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー7ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー9ーイル基、1, 8ーフェナンスロリンー10ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー2ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー3ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー4ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー5ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー6ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー7ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー8ーイル基、1, 9ーフェナンスロリンー10ーイル基、

【0040】1, 10ーフェナンスロリンー2ーイル基、1, 10ーフェナンスロリンー3ーイル基、1, 10ーフェナンスロリンー4ーイル基、1, 10ーフェナンスロリンー5ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー1ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー3ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー4ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー5ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー6ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー7ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー8ーイル基、2, 9ーフェナンスロリンー10ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー1ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー3ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー4ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー5ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー6ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー7ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー9ーイル基、2, 8ーフェナンスロリンー10ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー1ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー3ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー4ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー5ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー6ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー8ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー9ーイル基、2, 7ーフェナンスロリンー10ーイル基、

【0041】1ーフェナジニル基、2ーフェナジニル基、1ーフェノチアジニル基、2ーフェノチアジニル基、3ーフェノチアジニル基、4ーフェノチアジニル基、1ーフェノキサジニル基、2ーフェノキサジニル基、3ーフェノキサジニル基、4ーフェノキサジニル基、2ーオキサゾリル基、4ーオキサゾリル基、5ーオキサゾリル基、2ーオキサジアゾリル基、5ーオキサジアゾリル基、3ーフラザニル基、2ーチエニル基、3ーチエニル基、2ーメチルピロールー1ーイル基、2ーメチルピロールー3ーイル基、2ーメチルピロールー4ーイル基、2ーメチルピロールー5ーイル基、3ーメチルピロールー1ーイル基、3ーメチルピロールー2ーイル基、3ーメチルピロールー4ーイル基、3ーメチルピロールー5ーイル基、2ーtーブチルピロールー4ーイル基、3ー(2ーフェニルプロピル)ピロールー1ーイル基、2ーメチルー1ーインドリル基、4ーメチルー1ーインドリル基、2ーメチルー3ーインドリル基、4ーメチルー3ーインドリル基、2ーtーブチル1ーインドリル基、4ーtーブチル1ーインドリル基、2ーtーブチル3ーインドリル基、4ーtーブチル3ーインドリル基等が挙げられる。

【0042】置換又は無置換のアルコキシカルボニル基は-COOYと表され、Yの例としてはメチル基、エチル基、プロピル基、イソプロピル基、nーブチル基、sーブチル基、イソブチル基、tーブチル基、nーペンチル基、nーヘキシル基、nーヘブチル基、nーオクチル基、ヒドロキシメチル基、1ーヒドロキシエチル基、2ーヒドロキシエチル基、2ーヒドロキシイソブチル基、

1, 2-ジヒドロキシエチル基、1, 3-ジヒドロキシイソプロピル基、2, 3-ジヒドロキシ-*tert*-ブチル基、1, 2, 3-トリヒドロキシプロピル基、クロロメチル基、1-クロロエチル基、2-クロロエチル基、2-クロロイソブチル基、1, 2-ジクロロエチル基、1, 3-ジクロロイソプロピル基、2, 3-ジクロロ-*tert*-ブチル基、1, 2, 3-トリクロロプロピル基、ブロモメチル基、1-ブロモエチル基、2-ブロモエチル基、2-ブロモイソブチル基、1, 2-ジブロモエチル基、1, 3-ジブロモイソプロピル基、2, 3-ジブromo-*tert*-ブチル基、1, 2, 3-トリブロモプロピル基、

【0043】ヨードメチル基、1-ヨードエチル基、2-ヨードエチル基、2-ヨードイソブチル基、1, 2-ジヨードエチル基、1, 3-ジヨードイソプロピル基、2, 3-ジヨード-*tert*-ブチル基、1, 2, 3-トリヨードプロピル基、アミノメチル基、1-アミノエチル基、2-アミノエチル基、2-アミノイソブチル基、1, 2-ジアミノエチル基、1, 3-ジアミノイソプロピル基、2, 3-ジアミノ-*tert*-ブチル基、1, 2, 3-トリアミノプロピル基、シアノメチル基、1-シアノエチル基、2-シアノエチル基、2-シアノイソブチル基、1, 2-ジシアノエチル基、1, 3-ジシアノイソプロピル基、2, 3-ジシアノ-*tert*-ブチル基、1, 2, 3-トリシアノプロピル基、ニトロメチル基、1-ニトロエチル基、2-ニトロエチル基、2-ニトロイソブチル基、1, 2-ジニトロエチル基、1, 3-ジニトロイソプロピル基、2, 3-ジニトロ-*tert*-ブチル基、1, 2, 3-トリニトロプロピル基等が挙げられる。

【0044】また、環を形成する2価基の例としては、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基、ジフェニルメタン-2, 2'-ジイル基、ジフェニルエタン-3, 3'-ジイル基、ジフェニルプロパン-4, 4'-ジイル基等が挙げられる。

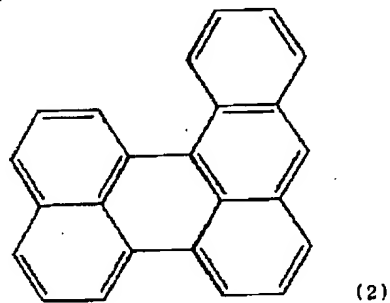
【0045】さらに、前記④、⑤の発明における炭素数6~20のアリール基の例としては、フェニル基、ナフチル基、アントリル基、フェナントリル基、ナフタセニル基、ピレニル基等が挙げられる。また、これらアリール基の置換基の例としては、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、前記の置換又は無置換のアミノ基、ニトロ基、シアノ基、前記の置換又は無置換のアルキル基、前記の置換又は無置換のアルケニル基、前記の置換又は無置換のシクロアルキル基、前記の置換又は無置換のアルコキシ基、前記の置換又は無置換の芳香族炭化水素基、前記の置換又は無置換の芳香族複素環基、前記の置換又は無置

換のアラルキル基、前記の置換又は無置換のアリールオキシ基、前記の置換又は無置換のアルコキシカルボニル基、カルボキシル基が挙げられる。

【0046】また、Ar<sup>1</sup>、Ar<sup>2</sup>が置換基として有するスチリル基の例としては、無置換のスチリル基、2, 2-ジフェニルビニル基の他、末端のフェニル基の置換基として、ハロゲン原子、ヒドロキシル基、前記の置換又は無置換のアミノ基、ニトロ基、シアノ基、前記の置換又は無置換のアルキル基、前記の置換又は無置換のアルケニル基、前記の置換又は無置換のシクロアルキル基、前記の置換又は無置換のアルコキシ基、前記の置換又は無置換の芳香族炭化水素基、前記の置換又は無置換の芳香族複素環基、前記の置換又は無置換のアラルキル基、前記の置換又は無置換のアリールオキシ基、前記の置換又は無置換のアルコキシカルボニル基、カルボキシル基等を有する置換スチリル基および置換2, 2-ジフェニルビニル基等が挙げられる。

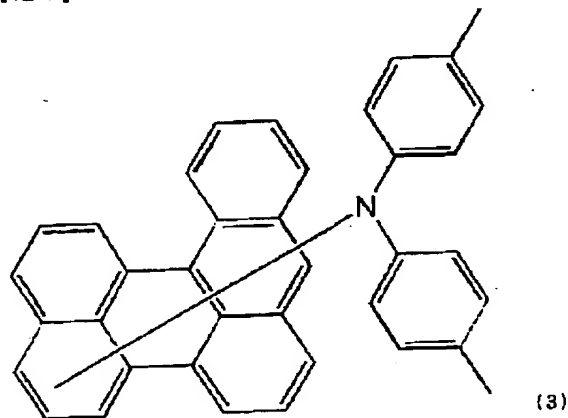
【0047】以下に本発明に用いるベンゾペリレン化合物の化合物の具体例を挙げるが、該化合物はこれらに限定されるものではない。

#### 【化3】



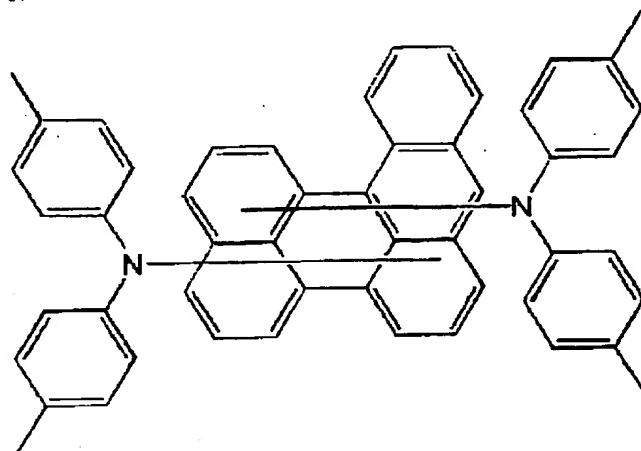
(2)

#### 【化4】



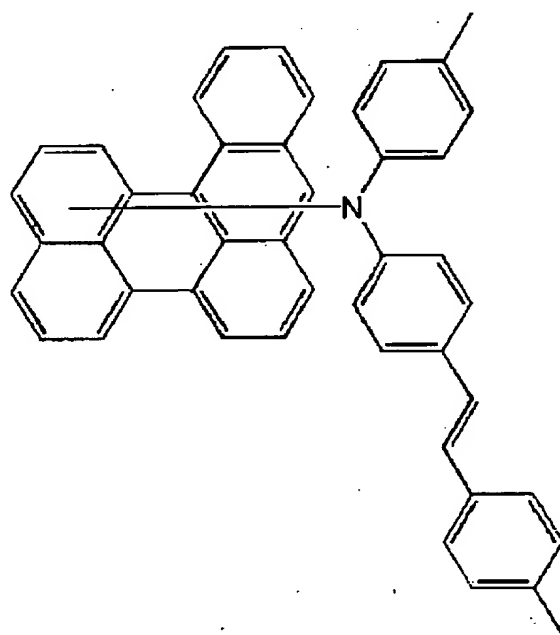
(3)

#### 【化5】



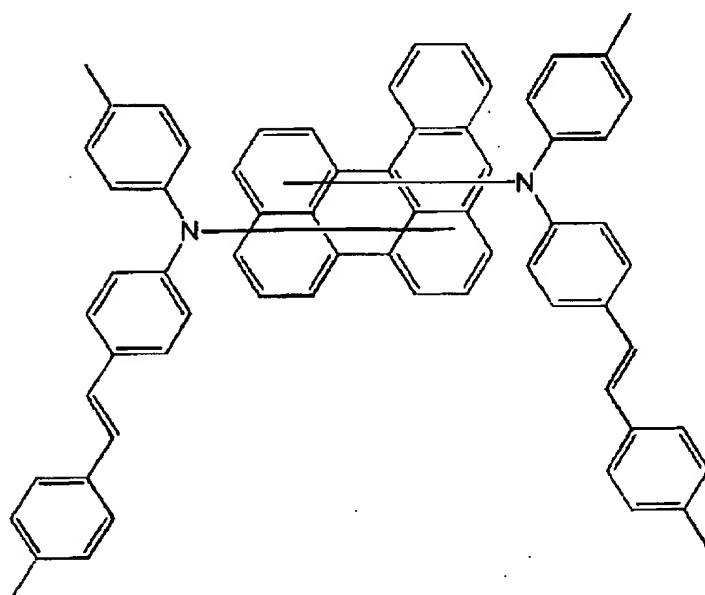
(4)

【化 6】



(5)

【化 7】

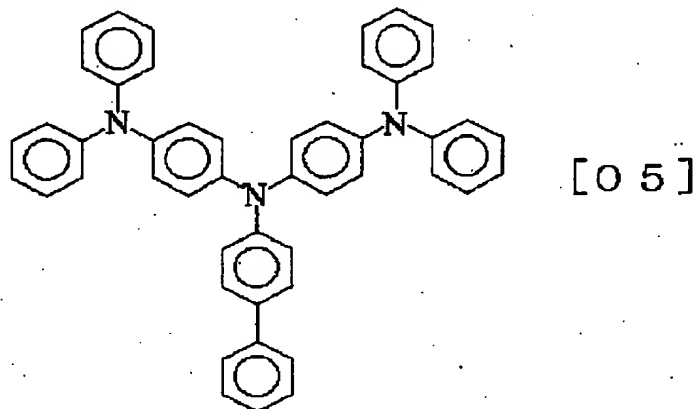


(6)

【0048】本発明に係る有機EL素子の素子構造は、電極間に有機層を1層あるいは2層以上積層した構造であり、その例として、図1に示すような陽極2、発光層4、陰極6からなる構造、図2に示すような陽極2、正孔輸送層3、発光層4、電子輸送層5、陰極6からなる構造、図3に示すような陽極2、正孔輸送層3、発光層4、陰極6からなる構造、図4に示すような陽極2、発光層4、電子輸送層5、陰極6からなる構造等の構造が挙げられる。なお、図1～4において1は基板を示す。前述したベンゾペリレン化合物は上記のどの有機層に用いられてもよく、他の正孔輸送材料、発光材料、電子輸送材料にドーピングさせることも可能である。

【0049】本発明に用いられる正孔輸送材料は特に限定されず、正孔輸送材として通常使用されている化合物であれば何を使用してもよい。正孔輸送材料の具体例としては、例えば、下記のビス(ジ(p-トリル)アミノフェニル)-1, 1'-シクロヘキサン[01]、N, N'-ジフェニル-N, N'-ビス(3-メチルフェニル)-1, 1'-ビフェニル-4, 4'-ジアミン[02]、N, N'-ジフェニル-N-N'-ビス(1-ナフチル)-1, 1'-ビフェニル-4, 4'-ジアミン[03]等のトリフェニルジアミン類や、スターバースト型分子([04]～[06]等)等が挙げられる。

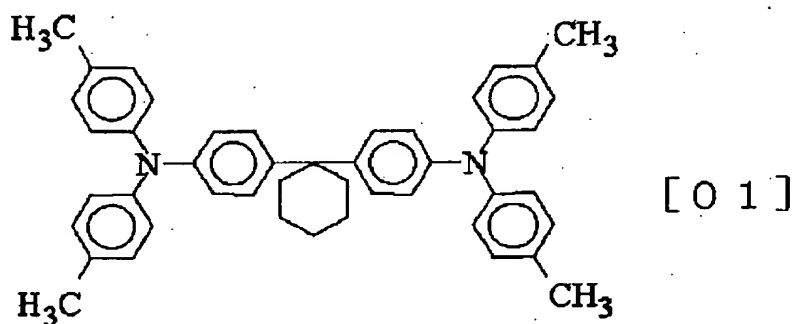
【化12】



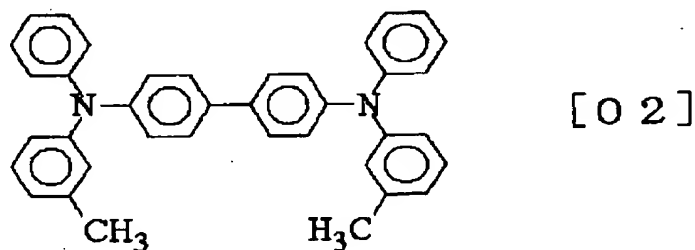
【0050】本発明に用いられる電子輸送材料は特に限定されず、電子輸送材として通常使用されている化合物であれば何を使用してもよい。電子輸送材料の具体例としては、例えば、2-(4-ビフェニル)-5-(4-t-ブチルフェニル)-1, 3, 4-オキサジアゾール[07]、ビス{2-(4-t-ブチルフェニル)-

1, 3, 4-オキサジアゾール}-m-フェニレン[08]等のオキサジアゾール誘導体、トリアゾール誘導体([09]、[10]等)、キノリノール系の金属錯体([11]～[14]等)が挙げられる。

【化8】

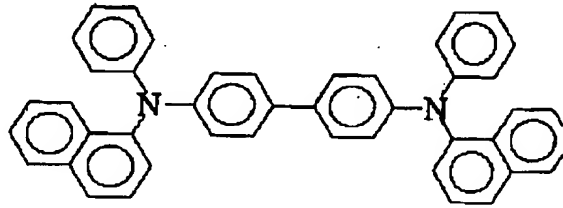


【化9】



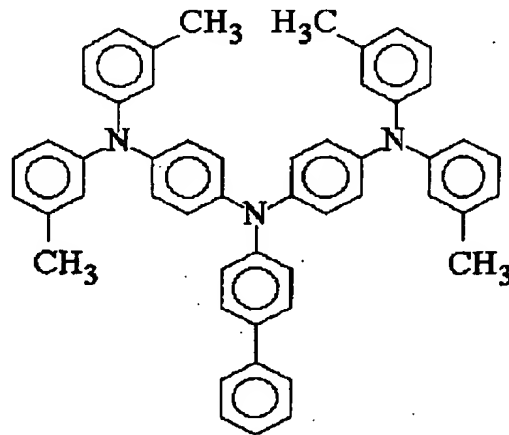
【化10】

21



[0 3]

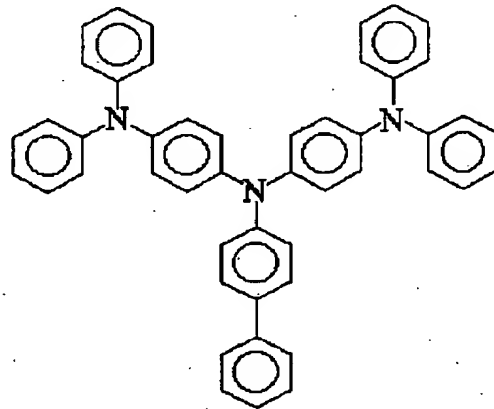
【化 1 1】



[0 4]

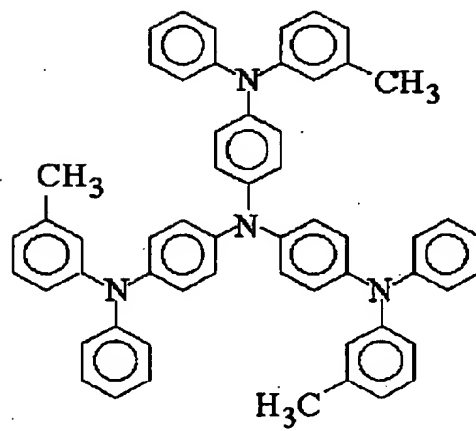
【化 1 2】

20



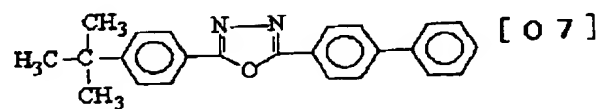
[0 5]

【化 1 3】



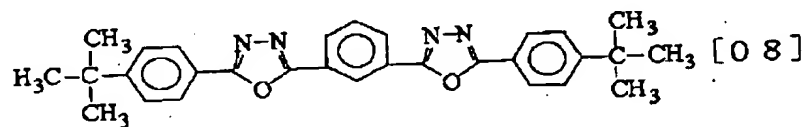
[0 6]

【化 1 4】

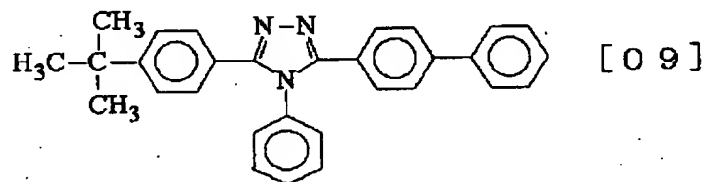


[0 7]

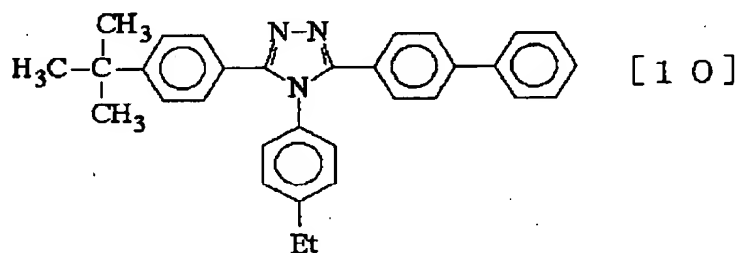
【化 15】



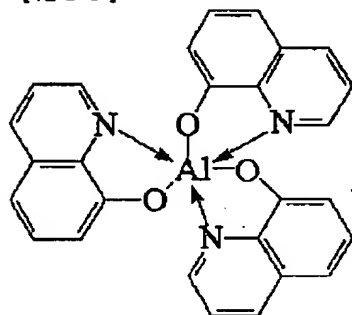
【化 16】



【化 17】



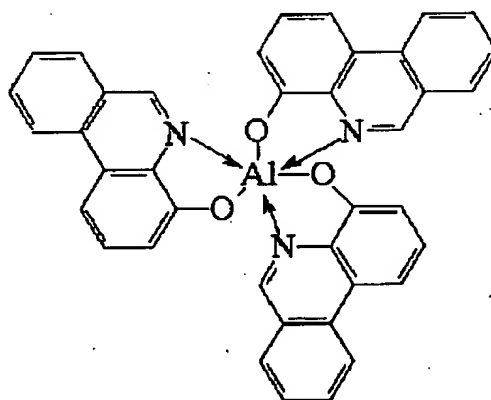
【化 18】



【化 19】

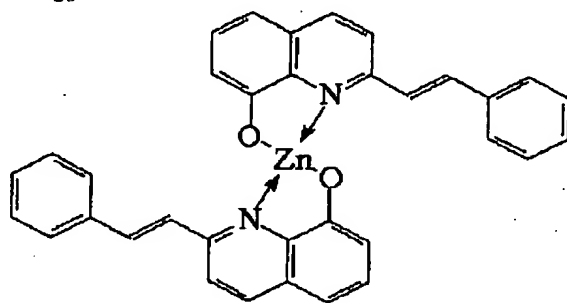
[ 1 1 ]

30



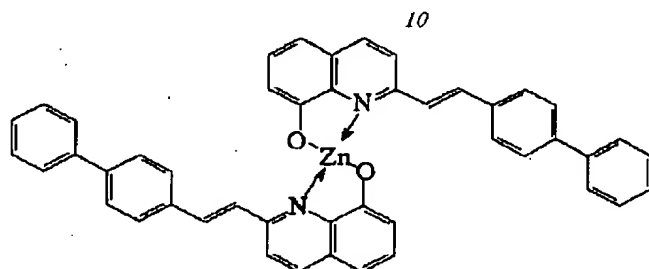
[ 1 2 ]

【化 20】



[13]

【化21】



[14]

【0051】有機薄膜EL素子の陽極は、正孔を正孔輸  
送層に注入する役割を担うものであり、4.5 eV以上  
の仕事関数を有することが効果的である。本発明に用い  
られる陽極材料の具体例としては、酸化インジウム錫合  
金（ITO）、酸化錫（NESA）、金、銀、白金、銅  
等が挙げられる。また、陰極としては、電子輸送層又は  
発光層に電子を注入する目的で、仕事関数の小さい材料  
が好ましい。陰極材料は特に限定されないが、具体的  
にはインジウム、アルミニウム、マグネシウム、マグネシ  
ウム-インジウム合金、マグネシウム-アルミニウム合  
金、アルミニウム-リチウム合金、アルミニウム-スカ  
ンジウム-リチウム合金、マグネシウム-銀合金等を使用  
できる。

【0052】本発明の有機EL素子の各層の形成方法は  
特に限定されず、例えば従来公知の真空蒸着法、スピン  
コーティング法等による形成方法を用いることができ  
る。本発明の有機EL素子に用いる、前記一般式（1）  
で示される化合物を含有する有機薄膜層は、真空蒸着  
法、分子線蒸着法（MBE法）あるいは溶媒に溶かした  
溶液のディッピング法、スピンコーティング法、キャスト  
ティング法、バーコート法、ロールコート法等の塗布法  
による公知の方法で形成することができる。

【0053】本発明の有機EL素子の各有機層の膜厚は  
特に制限されないが、一般に膜厚が薄すぎるとピンホ  
ール等の欠陥が生じやすく、逆に厚すぎると高い印加電  
圧が必要となり効率が悪くなるため、通常は数nmから1  
μmの範囲が好ましい。

【0054】

【実施例】以下、本発明を実施例をもとに詳細に説明す  
るが、本発明はその要旨を越えない限り、以下の実施例  
に限定されない。

【0055】（合成例1）化合物（2）（ベンゾ[a]ペ  
リレン）の合成

常法に従い7,14-ジオキソ-7,14-ジヒドロペ  
ンゾ[a]ペリレンを、ピリジン中の亜鉛粉末で処理  
し、次いで80%酢酸により処理した。常法にしたがっ  
て精製し、目的のベンゾ[a]ペリレンを得た。

【0056】（合成例2）化合物（3）（ジ-p-トリル  
アミノベンゾ[a]ペリレン）の合成  
ベンゾ[a]ペリレンを四塩化炭素に溶解し、冷却しな  
がら1当量の臭素を加えて4時間反応させブrom化した  
後、常法にしたがって精製し、プロモベンゾ[a]ペリ  
レンを得た。こうして得たプロモベンゾ[a]ペリレン  
に、ジ-p-トリルアミン、炭酸カリウム、銅粉を加  
え、200度で30時間反応させた。反応液を水で希釈  
した後、クロロホルムで反応物を抽出した。その後常法  
にしたがって精製し、ジ-p-トリルアミノベンゾ  
[a]ペリレンを得た。

【0057】（合成例3）化合物（4）（ビス（ジ-p-  
トリルアミノ）ベンゾ[a]ペリレン）の合成  
ベンゾ[a]ペリレンを四塩化炭素に溶解し、冷却しな  
がら2当量の臭素を加えて反応させブrom化した後、常  
法にしたがって精製し、ジプロモベンゾ[a]ペリレン  
を得た。こうして得たジプロモベンゾ[a]ペリレン  
に、2当量のジ-p-トリルアミン、炭酸カリウム、銅  
粉を加え、200度で30時間反応させた。反応液を水  
で希釈した後、クロロホルムで反応物を抽出した。その  
後常法にしたがって精製し、ビス（ジ-p-トリルアミ  
ノ）ベンゾ[a]ペリレンを得た。

【0058】（合成例4）化合物（5）（（4-（4-メ  
チルフェニル）フェニル）フェニル-p-トリルアミノ）ベ  
ンゾ[a]ペリレン）の合成

合成例3と同様の手法でプロモベンゾ[a]ペリレンを  
得た。プロモベンゾ[a]ペリレンに、1当量のフェニ  
ル-p-トリルアミン、炭酸カリウム、銅粉を加え、2  
00度で30時間反応させた。反応液を水で希釈した



後、クロロホルムで反応物を抽出した。その後常法にしたがって精製し、フェニルー p-トリルアミノベンゾ

【a】ペリレンを得た。フェニルー p-トリルアミノベンゾ【a】ペリレンをトルエンに溶解させ、これにオキシ塩化リンを加えて室温で攪拌した。これに N-メチルホルムアニリドを滴下し、50℃で5時間攪拌した。反応終了後冷水にゆっくり注ぎ、分液ロートに移してトルエン層を水で中性になるまで数回洗浄した。硫酸マグネシウムで乾燥後溶媒を留去した後、常法に従い精製して N-p-ホルミルフェニルー N-トリルアミノベンゾ

【a】ペリレンを得た。得られた N-p-ホルミルフェニルー N-トリルアミノベンゾ【a】ペリレンと p-メチルベンジルホスホン酸ジエチルエステル、水素化ナトリウムをジメチルスルホキシド中で一昼夜反応させた。反応液を氷水に注いだ後、クロロホルムで反応物を抽出した。その後常法にしたがって精製し、4-(4-メチルフェニルビニル)フェニルー p-トリルアミノ)ベンゾ【a】ペリレンを得た。

【0059】(合成例5) 化合物(6) (ビス(4-(4-メチルフェニルビニル)フェニルー p-トリルアミノ))ベンゾ【a】ペリレン)の合成

プロモベンゾ【a】ペリレンの代りにジプロモベンゾ

【a】ペリレンを用い、フェニルー p-トリルアミンを2当量用いる以外は合成例4と同様にして、ビス(4-(4-メチルフェニルビニル)フェニルー p-トリルアミノ))ベンゾ【a】ペリレンを得た。

【0060】以下、本発明に係る有機EL素子の実施例として、式(1)のベンゾペリレン化合物を発光層(実施例1~14)、正孔輸送材料との混合薄膜を発光層(実施例15~17)、電子輸送材料との混合薄膜を発光層(実施例18~20)、正孔輸送層(実施例21~22)、電子輸送層(実施例23)として用いた例を示す。

【0061】(実施例1) 実施例1に用いた素子の断面構造を図1に示す。以下に本発明の実施例1に用いる有機薄膜EL素子の作製手順について説明する。素子は陽極2/発光層4/陰極6により構成されている。ガラス基板1上にITOをスパッタリングによってシート抵抗が20Ω/□になるように製膜し、陽極2とした。その上に発光層4として、化合物(2)を真空蒸着法にて40nm形成した。次に陰極6としてマグネシウム-銀合金を真空蒸着法にて200nm形成して有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を5V印加したところ、30cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0062】(実施例2) 発光層4として化合物(3)を用いる以外は、実施例1と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を5V印加したところ、70cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0063】(実施例3) 発光層4として化合物(4)を用いる以外は、実施例1と同様の操作を行い有機EL

素子を作製した。この素子に直流電圧を5V印加したところ、100cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0064】(実施例4) 発光層4として化合物(5)を用いる以外は、実施例1と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を5V印加したところ、120cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0065】(実施例5) 発光層4として化合物(6)を用いる以外は、実施例1と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を5V印加したところ、140cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0066】(実施例6) ガラス基板1上にITOをスパッタリングによってシート抵抗が20Ω/□になるように製膜し、陽極2とした。その上に化合物(6)のクロロホルム溶液を用いたスピンコート法により40nmの発光層4を形成した。次に陰極6としてマグネシウム-銀合金を真空蒸着法により200nm形成して有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を5V印加したところ、70cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0067】(実施例7) 実施例7に用いた素子の断面構造を図2に示す。素子は陽極2/正孔輸送層3/発光層4/電子輸送層5/陰極6により構成されている。ガラス基板1上にITOをスパッタリングによってシート抵抗が20Ω/□になるように製膜し、陽極2とした。その上に正孔輸送層3として、N,N'-ジフェニルー N,N'-ビス(3-メチルフェニル)-[1,1'-ビフェニル]-4,4'-ジアミン[02]を真空蒸着法にて50nm形成した。次に、発光層4として化合物(2)を真空蒸着法にて40nm形成した。次に、電子輸送層5として2-(4-ビフェニル)-5-(4-tert-ブチルフェニル)-1,3,4-オキサジアゾール[07]を真空蒸着法にて20nm形成した。次に、陰極6としてマグネシウム-銀合金を真空蒸着法によって200nm形成して有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、400cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0068】(実施例8) 発光層4として化合物(3)を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、1200cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0069】(実施例9) 発光層4として化合物(4)を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、1800cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0070】(実施例10) 発光層4として化合物(5)を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、2000cd/m<sup>2</sup>の発光が得られた。

【0071】(実施例11) 発光層4として化合物(6)を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印

10

20

30

40

50

加したところ、 $2500\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0072】(実施例12) 正孔輸送層3としてN, N'-ジフェニル-N-N-ビス(1-ナフチル)-1, 1'-ビフェニル-4, 4'-ジアミン[03]を、電子輸送層5としてビス(2-(4-tert-ブチルフェニル)-1, 3, 4-オキサジアゾール)-m-フェニレン[08]を用いる以外は、実施例8と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $1700\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0073】(実施例13) 正孔輸送層3として化合物[04]を、発光層4として化合物(4)を、電子輸送層5として化合物[11]を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $2200\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0074】(実施例14) 正孔輸送層3として化合物[05]を、発光層4として化合物(6)を、電子輸送層5として化合物[12]を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $4000\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0075】(実施例15) 実施例15に用いた素子の断面構造を図4に示す。素子は陽極2/発光層4/電子輸送層5/陰極6により構成されている。ガラス基板1上にITOをスパッタリングによってシート抵抗が $20\Omega/\square$ になるように製膜し、陽極2とした。その上に発光層4としてN, N'-ジフェニル-N-N-ビス(1-ナフチル)-1, 1'-ビフェニル-4, 4'-ジアミン[03]と化合物(3)を1:10の重量比で共蒸着して作製した薄膜を50nm形成した。次いで、電子輸送層5として化合物[09]を真空蒸着法にて50nm形成した。次に、陰極6としてマグネシウム-銀合金を200nm形成してEL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $800\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0076】(実施例16) 化合物(3)の代わりに化合物(6)を用いる以外は、実施例21と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $2000\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0077】(実施例17) ガラス基板1上にITOをスパッタリングによってシート抵抗が $20\Omega/\square$ になるように製膜し、陽極2とした。その上に化合物(6)とN, N'-ジフェニル-N-N-ビス(1-ナフチル)-1, 1'-ビフェニル-4, 4'-ジアミン[03]をモル比で1:10の割合で含有するクロロホルム溶液を用いたスピンコート法により40nmの発光層4を形成した。次に、化合物[10]を用いて真空蒸着法により50nmの電子輸送層5を形成し、その上に陰極

6としてマグネシウム-銀合金を真空蒸着法により200nm形成して有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $900\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0078】(実施例18) 実施例18に用いた素子の断面構造を図3に示す。素子は陽極2/正孔輸送層3/発光層4/陰極6により構成されている。ガラス基板1上にITOをスパッタリングによってシート抵抗が $20\Omega/\square$ になるように製膜し、陽極2とした。その上に正孔輸送層3としてN, N'-ジフェニル-N-N-ビス(1-ナフチル)-1, 1'-ビフェニル-4, 4'-ジアミン[03]を真空蒸着法にて50nm形成した。次に、発光層4として化合物[11]と化合物(4)とを20:1の重量比で真空共蒸着した膜を50nm形成した。次に、陰極6としてマグネシウム-銀合金を200nm形成してEL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $1400\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0079】(実施例19) 発光層4として化合物[11]と化合物(6)とを20:1の重量比で真空共蒸着した50nmの膜を用いる以外は、実施例18と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $2000\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0080】(実施例20) 正孔輸送層3としてN, N'-ジフェニル-N, N'-ビス(3-メチルフェニル)-[1, 1'-ビフェニル]-4, 4'-ジアミン[02]を、発光層4として化合物[13]と化合物(6)とを20:1の重量比で真空共蒸着して作製した膜を用いる以外は、実施例18と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $1800\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0081】(実施例21) 正孔輸送層3として化合物(5)を、発光層4として化合物[13]を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $500\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0082】(実施例22) 正孔輸送層3として化合物(6)を用いる以外は、実施例21と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $700\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0083】(実施例23) 電子輸送層5として化合物(2)を用い、発光層4として[11]を用いる以外は、実施例7と同様の操作を行い有機EL素子を作製した。この素子に直流電圧を10V印加したところ、 $70\text{cd}/\text{m}^2$ の発光が得られた。

【0084】

【発明の効果】以上説明したとおり、本発明の有機EL素子は、一般式(1)で示されるベンゾペリレン化合物を構成材料とすることにより、従来に比べて高輝度な発

光が得られ、本発明の効果は大である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係る有機 E L 素子の一例の断面図である。

【図 2】本発明に係る有機 E L 素子の一例の断面図である。

【図 3】本発明に係る有機 E L 素子の一例の断面図である。

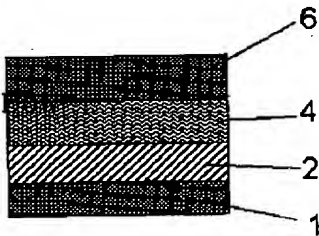
【図 4】本発明に係る有機 E L 素子の一例の断面図であ

る。

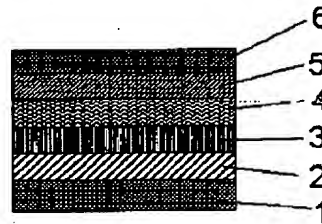
【符号の説明】

- 1 基板
- 2 陽極
- 3 正孔輸送層
- 4 発光層
- 5 電子輸送層
- 6 陰極

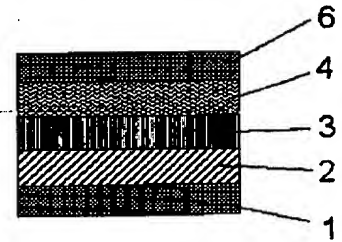
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

